

## 第159回経営協議会[臨時]議事録

日 時 令和8年5月14日(木)～5月21日(木) 持ち回り審議

学外委員 空閑委員、中川委員、長友委員、橋本委員、牧委員、松尾委員、眞鍋委員、森委員、山下委員

学内委員 村松学長、阪口理事、仲谷理事、浦木理事、大月理事、和田情報理工学域長、中村情報理工学研究科長

### 議 題

審議事項1 第4期中期目標期間の教育研究の状況にかかる評価(4年目終了時評価)について  
(資料①-1～6)

第4期中期目標期間の教育研究の状況にかかる評価(4年目終了時評価)について  
持ち回り審議を行い、これを了承した。

主な意見は次のとおり

- 一つの大学で1、2年次の全ての教育アセットを有することは、今後難しくなる可能性があり、初年次教育における他大学との連携、協力を行うことで、その資源を研究に振り分ける等について、検討してはどうか。
- ダイバーシティを高める取り組みや、「ごみナビ」など地域の課題解決につながる取り組みなど、非常に面白い。
- 取り組み内容や成果について、大要を理解することができた。引き続き計画を遂行していただきたい。
- 第4期中期目標期間において、教育及び研究の、質向上に係る本質的な目標が設定され、またそれに対する客観的な現状分析がなされていると思われる。
  
- 特記事項の数は、教育(学部6、研究科5)、研究(研究科4)となっているが、どのような観点から、選出されてこの数値となったのか。  
(回答)「特記事項の数」の選出にあたっては、評価者に本学の強みをいかに「印象深く」伝えられるかを検討し、以下のような判断を行った。
  - ・機構側のルールとして、最終的に評価(加点)の対象となる「優れた点・特色ある点」は、合計で最大2個までと決まっているため、多くの事例を並べるよりも、評価に繋がりそうなポイントをある程度絞り込むのが得策である。
  - ・ページ数に限りがある中で、一つひとつの取り組みを丁寧に説明しようとした際、1ページに2つ程度を記載するのが、ベストであると判断した。
  
- 国際共著論文率の対象(分母)となる論文は、どの範囲の論文か。  
(回答)国際共著論文率の対象(分母)となる論文は、WoSに収録されている論文のみ。

○数理・データサイエンス・AI プログラムの修了者数(別添5)の説明において「累計終了者数は820名に達した」とあるが、この数字は、ベンチマークなど、何らかの意味を持つものか。

(回答)この数字自体に特定のベンチマークがあるわけではないが、特筆すべきは本学の教育体制である。多くの大学が副専攻などの「追加プログラム」で対応するなか、本学は理工系単科大学としての特色を活かし、「通常のカリキュラムを受講するだけで、年間400名規模の応用基礎レベル(プラス)修了者を輩出できる」という、極めて高い教育密度を実現していることを示している。

[配付資料]

- ①-1\_第4期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に係る評価実施要項等の概要
- ①-2\_(案)現況調査票(教育)
- ①-3\_教育別添資料(学域)
- ①-4\_教育別添資料(研究科)
- ①-5\_(案)現況調査票(研究)
- ①-6\_研究別添資料